

平成 23 年度第 3 回ルール委員会議事録

開催日時：2012 年 3 月 4 日 10:30 – 16:30

場 所：岸記念体育会館

参加者：

<委員> 増田委員長、大村副委員長、前園副委員長、秋元、松原、川北、日下部、村松、木内
富松、石川、桜井、川田、中野、朝田、加藤、田中、山口、高野、佐藤(百)、岡嶋
計 21 名 (欠席 13 名)

<顧問委員> 周東 1 名 (欠席 4 名)

<支援委員> 高田、宮野、小池 計 3 名 (欠席 0 名)

<事務局員> 寫村 1 名 (欠席 1 名)

1. <報告>今年度小委員会活動報告 …… 各小委員長

1.1 ジャッジ小委員会 (前園小委員長)

- ・ A 級ジャッジ認定講習・試験：山口と福井で実施。福井で石川県連の岩城氏が A 級ジャッジに新規認定された。
- ・ A 級ジャッジセミナー：今年度計 6 回開催 (うち 2 回は実施済み)。テーマは規則 42 と救済。概ね好評を得たが、時間配分および規則 42 の伝え方についての改善要望が受講者からあった。
- ・ 規則 42 解釈について、以下 2 件を ISAF に対して Q&A を提示した (田中委員)。
 - ロール・タック後の 1 回のロール行動について (解釈とビデオ内容との相違あり)
 - ロック 6、ロック 7、規則 42.3(b)の考え方
- ・ 艇種別規則 42 の日本語訳：ポピュラーな艇種は完了しているものの、まだ日本語訳ができていない艇種があるため、来年度への取組項目とすることとなった。また、470 のクラス規則改定が未反映であるため、速やかに反映することとなった。

1.2 IJ/IU 育成小委員会 (増田小委員長)

- ・ IJ/IU 候補者の国際大会参加の渡航支援：今年度は田中委員に対し、2 回の渡航補助を行った。
- ・ 国内の国際大会への海外 IJ 招聘、日本人 IJ 候補者の派遣：和歌山 Int'l レガッタ、江ノ島オリンピックウィークへの招聘、派遣を行った。
- ・ セミナー等の招致：10 月の規則 42 セミナー実施、2012 年 7 月 IJ セミナー、2013 年 4 月 IU セミナーがそれぞれ予定されている。
- ・ JSAF 他委員会主催事業の支援：ジャッジの派遣を 4 つの大会 (委員会) に対して、講師の派遣を 3 回 (委員会) に対して実施した。

1.3 アンパイア小委員会 (田中小委員長)

- ・ アンパイア資格認定：アンパイア試験に合格したものの、B 級ジャッジ未取得であった横山氏が、B 級ジャッジを取得されたため、アンパイアに認定された。
- ・ ラピッドレスポンス：最新のものへの日本語訳が完了し、Web 公開された。一方、

標準 SI の改訂（2011 年 8 月版）については、まだ翻訳未完了。

- ・ 人材育成：4 月香港、6 月韓国で行われる IU クリニックに、IU 候補者 3 名が参加予定。
- ・ 大学対抗マッチ大会：大学 OB 後のセーリング継続者の増加を狙いとし、3 月に日産 M 東海で実施計画中。
- ・ 今年度マッチレース日程を配布し、アンパイアへの機会均等化とアンパイア確保を図るとの報告があった。

1.4 規程管理小委員会（富松副委員長）

- ・ ISAF 発行文書の翻訳：付属文書 Q-2011／付則 LE／Experimental Appendix Q 2009 の日本語訳を完了し、Web 公開した。付則 BB／ISAF セーラー分類規定／同 FAQ／ISAF 資格規定／ISAF 広告規定／ISAF ドーピング防止規定については、現在進行中であり、近日中の完了を目指す。
- ・ NJ/NU 規程細則／事務取扱要項の追加改訂：レース委員会／ODC 計測委員会との合同 WG が立ち上がっており、その中での決定事項に基づき改訂していく。

1.5 外洋小委員会（大村小委員長）

- ・ 外洋レース規則 2009／規則 42.3(h)の普及：今年度 9 大会で利用した。特に問題は上がっていない。
- ・ その他：外洋関係者との連携：外洋会議（3 回）、外洋合同会議（2 月）それぞれへ参加し、ルールの理解・浸透を図った。
- ・ 外洋関係者ジャッジの発掘：なかなか候補者がおらず、継続課題。

1.6 普及小委員会（石川小委員長）

- ・ 指導者・選手講習会：今年度計 18 回開催（約 715 名参加）実施（現在までに 13 回実施。昨年：19 回 796 名）。概ね好評を博した。次回ルール委員会等の場で、参加者からの主な質問をまとめ、次回に向けた課題を発掘することとなった。また、大都市圏での開催が少ないため、開催の紹介方法について、再考する必要がある。
- ・ ボード選手に対する講習を 2 月末に実施。受講者は一様に真剣な取組であり、高い関心が伺えた旨の報告があった。

2. <報告>3 委員会合同 WG 活動報告 …… 大村副委員長

- ・ ルール／レース／ODC 計測の 3 委員会より、指名されたメンバーで構成する WG が活動中。メンバーは以下。

ルール：大村、前園、岡部、田中

レース：羽柴、大原、長塚、岡田

ODC 計測：広田、大庭、名方

- ・ まずは、レース・オフィシャルズ認定料等の整合について協議中。
- ・ JSAF は来年度より公益法人に移行するため、JSAF 事業の全ての収支は JSAF で計上し、公益事業全体での収支は均衡させなければならないとの規定がある旨の報告があった。

3. <協議>レース・オフィシャルズ認定料等の整合について …… 大村副委員長

- ・ 現状 3 委員会が担当する資格認定に関する料金体系の一覧が配布され、それぞれに違いがある旨が理解された。
- ・ 現在、WG での案として、以下が提示された。

<JSAF 主催の受講について>

- ・ 対象：NJA/NU
- ・ 現在の受講料を、受講料、試験料、認定料、資格証発行手数料に分解し、それぞれの 1 日あたりの基礎科目は各資格でレース・オフィシャルズとして統一していく方向。
- ・ 認定料は、資格要件確認の手数差より、新規と更新では料金を分ける。
- ・ 経費についても、講師料を「役務費」として計上するなどの案を作成。
- ・ 上記案に基づく新受講料の案が提示された（詳細省略）。

<加盟団体主催の受講について>

- ・ 対象：NJB
- ・ 基礎科目の考え方は、JSAF 主催の受講と同。
- ・ 経費についても、「JSAF からの委託」との位置付けを明確化し、一定額を JSAF から支出する旨の案が提示された。
- ・ 上記案に基づく新受講料の案が提示された（詳細省略）。
- ・ 本件については、次回 RRS 改定に伴う資格更新までに反映が必要であるため、6 月までには決定する必要がある。
- ・ 本件について、委員から以下のような意見が出され、その結果を合同 WG に持ち込み、協議していくこととなった。

(主な意見)

- ・ 講師料：講師役務費としての科目名称は妥当であり、かつ各委員会でのバラツキが大きいが、ルール委員会としては、実際の役務量に相当する現状を踏襲する意向。
- ・ 委託料/領収書の受領業務：現実的な業務量を鑑み、一定額のみ委託料として授受する等の方法も合わせて検討必要。
- ・ NU 更新受講日数：現状の座学/実技合わせて原則 3 日との規定と、更新料案の 1 万円は整合していない。座学と実技でそれぞれの日数を規定する必要がある。例えば、実技 1 日、座学 1 日とすることを検討してはどうか。
- ・ 他委員会の資格受講料等のバランス：NRO の現状 1.5 日というのは実質的に 2 日であるはず。NJA (2.0 日) と受講料差が生じるのはおかしくないか。
- ・ このように、基礎科目とそれぞれの料金を明確化するのであれば、各科目とそれに紐づく組織を明確化するべき。(例えば、「試験料」は、試験問題開発や採点作業の役務費+試験問題印刷費用が算定根拠となる。など)
- ・ 新受講料の規模感：大きな違和感はない。

4. <協議> レース・オフィシャルズ認定証の廃止について … 増田委員長

- ・ JSAF 理事会にて、理事から出された提案に対し、関連各委員会で協議することとなった。
- ・ 現在の課題は、発行の遅延と間違い等の事故。これを解決するために、現在発行して

いる認定証を、ISAF レース・オフィシャルズ同様、廃止してはどうか？との提案。

- ・ 本件について、委員から以下のような意見が出され、その結果を合同 WG に持ち込み、協議し、次回ルール委員会で審議することとなった。

(主な意見)

- ISAF でも、以前はバッチが発行されたが現在は廃止し、資格認定のレターの郵送と、氏名の Web 公示のみ。
- RO、メジャラー、NJA、NU は Web 公開しているが、NJB は認定証のみ。
- 少なくとも写真をなくすことによって、かなりの手数が減ると見込まれるが、本人確認の機能が失われる。
- IT の発達により、各個人の携帯等に専用の HP をダウンロードし、写真入り資格証を携帯画面に表示する方法は、費用の問題あるが可能。
- 本件については、課題をしっかりと明確にすることが必要。現状発行遅延している理由に、受講者の JSAF 会員未登録（入金処理遅延含む）のため資格要件充当待ちが必要である、写真受領遅延等の課題がある。これらを解決する方法は何か？という視点で検討しないで、いきなり方法論の具体化を進めると、課題解決にならない可能性をはらむ。例えば、認定証発行を年 2 回などと決めて予め説明しておけば、多くの課題は解決するのではないか？
 - 認定証が届くことは、資格取得者の活動への意欲に繋がるのではないか。
 - 認定証が届くことよりも、むしろ、WEB に自分の名前が掲載されることの方が、意欲につながるのではないか。

5. <協議>レース・オフィシャルズ更新講習の共通化について … 増田委員長

- ・ JSAF 理事会にて、理事から出された提案に対し、関連各委員会で協議することとなった。
- ・ 現状認識している課題は、複数の資格保有者の、更新時の時間・金銭的負担が大きいこと。
- ・ 本件について、委員から以下のような意見が出され、今後増田委員長より方針を提示することとなった。

(主な意見)

- 過去、NJB と ARO の更新を併せて 1 日で完了させた実績はある。
- 2009 年の資格更新講習には、改定内容の説明とともに、ジャッジ／アンパイアのスキル維持／向上の目的を有していた。このうち後者の内容を、ジャッジセミナーに移管するという考えもあるが、ジャッジセミナーの受講者は、A 級ジャッジの半数にも満たないのが現状である。
- A 級ジャッジの一部しかセミナー受講していないが、実働者の比率は高いかもしれず、近年地方開催を活発化させ、2009 年の環境とは異なるのではないか？
- 2009 年のときに伝達した改定内容も、本則中心で、付則は殆ど触れられていない。次回改正時も、付則 B の全面改定、付則 X の新規追加もある。すなわち更新講習会のコアとしての伝えるべきことの明確化が必要。

- 本件については、時間よりも狙うべきゴールを決めるべき。委員長から方針を出して欲しい。

6. <協議>レガッタ・レポートの有効化について …… 前園副委員長

- ・ 今後収集されたレガッタ・レポートの積極的な活用を図るべく、委員からの意見収集を行ない、以下の意見が出された。
- ・ 本件については、フォームを変え、ケース関連情報のみ収集し、JSAF ルール委員会限定ページにアップすることをまず実施することとした。同時に、使い方はこれを運用しながら検討していくこととした。

(主な意見)

- 現在、大会の JSAF 公認審査に関する事務処理の改善が検討されている。現状の規定に基づく、レガッタ・レポートは JSAF 事務局と JSAF レース委員会に提出が義務付けられているが、ルール委員長に渡っていないケースがあるなど、流れが機能しきれていないケースがあり、またレース委員会はそれを不要とする意見もあるようだ。
- 過去、レガッタ・レポートの 6 割に抗議書・判決書が添付されていなかった。
- 必要なのは、ケースに関する情報のみであろう。ただ、フォームは変えるべき。
- JSAF 公認大会については、他の報告書と共にレース委員会に提出される場合が多い。そのような場合に、レガッタ・レポートがルール委員会に転送されていないのではないか。

7. <協議>RRS 改定に向けた体制について …… 増田委員長

- ・ 次回 RRS 改定の国内施行は、2013 年 1 月とし、今年 12 月には、A 級ジャッジ更新講習を完了させる旨の、増田委員長方針が提示された。
- ・ 上記方針に基づき、前回改定時よりも前倒して推進する必要がある。具体的には、すぐに開始が必要であるとの認識が示された。
- ・ 翻訳のみならず、製本、講習、認定管理についての各担当が示された。
 - 全体調整：大村
 - 現行翻訳改良：前園
 - 改定箇所翻訳：田中
 - 改正点、影響分析：石川
 - 製本：大村
 - 講習 (NJ)：前園
 - 講習 (NU)：田中
 - 講習 (指導者・選手)：石川
 - 認定管理/認定証発行：松原 (窓口：加藤)
 - 予算管理：鳶村

※但し、上記氏名のメンバーは、各パートの取りまとめ役であり、翻訳作業や講習会資料開発はルール委員会全員で分担して取り組む必要がある。

8. その他 …… 前園副委員長

- ルール委員会限定 Web の活用について：今後ルール委員会資料はすべて Web 掲載するので、各自必要に応じて印刷して持参することとなった。そのほか、RRS 改定翻訳の委員内共有等にも活用可能である。
- 災害に伴う認定証再発行手数料の減免措置について：3 委員会とも、震災によって遺失した認定証の再発行、再交付手数料については、全額減免する旨、JSAF 理事会で承認された。

以上